

## 教育委員会会議の概要（令和5年7月臨時会）

- ◆ 日 時 令和5年7月11日（火）午後2時00分から午後5時39分まで
- ◆ 場 所 教育局 第1会議室
- ◆ 出 席 者

教 育 長	福 田 洋 之	出 席
委員・教育長職務代理者	花 渕 浩 司	出 席
委 員	梅 田 真 理	出 席
委 員	川 又 政 征	出 席
委 員	後 藤 由 起 子	出 席
委 員	山 田 理 恵	出 席
委 員	庄 司 弘 美	出 席

### ◆ 会議の概要

#### 1 開 会

#### 2 議事録署名委員の指名 庄 司 委 員

#### 3 協 議 事 項

##### （1）令和6年度使用の仙台市立義務教育諸学校教科用図書の採択について

（教育指導課長、教育センター担当指導主事 説明）

教育指導課長 初めに、教科用図書の採択について説明する。

今年度は、令和6年度に使用する「小学校用教科書」、特別支援学校・特別支援学級で使用する「一般図書・文部科学省著作本」の採択を行うこととなるが、本日を含む4回の協議においては、これらの教科用図書のうち、小学校用教科書、特別支援学校・特別支援学級用一般図書・文部科学省著作本について審議いただき、7月25日の定例教育委員会で、それぞれの採択をお願いしたいと考えている。

それでは、本日の協議事項の中で審議いただく、小学校で使用する教科書の採択について説明する。今年度においては、令和4年度検定に合格し、令和5年4月文部科学省発行の小学校用教科書目録（令和6年度使用）に登載されたすべての教科用図書の中から、令和6年度に小学校で使用する教科書を採択する。この小学校並びに特別支援学校・特別支援学級で使用する教科書については、7月3日にそれぞれ「令和5年度仙台市立義務教育諸学校教科用図書協議会」から教育委員会に対し、採択対象となる教科用図書の特長について協議した結果の報告が行われた。本

日以降の審議に当たり、この協議会報告書や調査研究委員会報告書等の内容も参考にさせていただく。

大まかなスケジュールとして、本日は、小学校用教科書の音楽、生活、保健について審議し、7月14日、7月19日、7月21日に残りの小学校用教科書と特別支援教育関係の教科書等についてご審議いただく。

教 育 長 今回の説明について、何か質問等があればお願いします。

(質疑なし)

教 育 長 本日は、今年度の採択対象となる小学校用教科書3種目についての協議を行う。協議の適正さ、公正さを確保する観点から、委員の皆様にも率直な意見を述べていただくため、本日の協議の際の発言については、お手元の対応表に従って、発行者名ではなく、A者・B者と呼ぶようお願いする。

なお、A・Bの記号は、任意に振ったもので、発行者番号順ではないので、ご了承ください。

本日使用する資料のうち、発行者名が記載されている別紙資料1～4と別紙資料9、10については、採択手続き終了まで非公開としている。そのため、傍聴の皆様にはこれらの資料を配付しないこととしている。教育委員会議事録が確定次第、当該資料を市政情報センターにおいて閲覧できるようにするので、ご了承ください。

なお、別紙資料の5、6は宮城県教育委員会ホームページに、別紙資料7、8は文部科学省ホームページに、同一の資料が掲載されている。

それでは、改めて事務局から、配付資料についての説明をさせていただきます。

教育指導課長 本日配付している資料について説明する。

はじめに、資料1は、6月の臨時教育委員会で議決いただいた「令和6年度使用の仙台市立義務教育諸学校教科用図書採択方針」である。

次に、資料2は、宮城県教育委員会から示された「教科書の採択に係る基本方針」である。

次に、資料3は、同じく宮城県教育委員会から示された「令和6年度使用教科用図書採択基準（小学校 各教科）」である。

次に、資料4は、同じく宮城県教育委員会から示された「令和6年度使用教科用図書採択基準（小学校 特別の教科 道徳）」である。

次に、資料5は、同じく宮城県教育委員会から示された「令和6年度使用学校教育法附則第9条の規定による教科用図書（一般図書）採択基準」である。

これらは、県内各採択地区において、適切な採択を確保するための援助として、宮城県教育委員会が作成したものである。

次に、資料6は、「小学校教科書発行者一覧」である。

続いて、別紙資料について説明する。

別紙資料1は、「令和6年度使用の仙台市立義務教育諸学校教科用図書に関する意見の集約について（報告）【小学校】【特別支援学校・特別支援学級】」である。この資料は、有識者、保護者代表、校長から構成された仙台市立義務教育諸学校教科用図書協議会で、それぞれの学校で使用する教科書の特長をまとめたものであり、協議順に記載している。

別紙資料2は、「令和6年度使用の仙台市立義務教育諸学校教科用図書にかかわる

資料調査研究委員会報告書【小学校】である。この資料は、小学校の校長、教頭らで構成された調査研究委員と主幹教諭、教諭で構成された専門委員が、専門的見地から各教科の教科書の調査研究を行い、報告書としてまとめている。この報告書は、県の採択基準に沿った仙台市の採択の観点に基づく調査研究と、学習指導要領に沿った仙台市の採択の観点に基づく調査研究を、1者につき1ページでまとめており、各教科書の特長を観点に沿って、網羅的に示した報告書である。

別紙資料3は、「令和6年度使用の仙台市立義務教育諸学校教科用図書にかかわる資料調査研究委員会報告書【特別支援学校及び特別支援学級】」である。

別紙資料4は、「令和5年度仙台市立義務教育諸学校教科用図書協議会議事録」である。

別紙資料5は、「宮城県教育委員会 令和6年度使用教科用図書選定資料 小学校用」である。

別紙資料6は、「宮城県教育委員会 令和6年度使用学校教育法附則第9条の規定による教科用図書（一般図書）選定資料」である。これらの選定資料は、資料3から5の宮城県教育委員会の採択基準の四つのカテゴリーについて、教科ごとに全発行者の特長をまとめたものである。

別紙資料7は、令和5年4月に文部科学省から示された「小学校用教科書目録（令和6年度使用）」である。

別紙資料8は、令和5年4月に文部科学省から示された「特別支援学校用（小・中学部）教科書目録（令和6年度使用）」である。

別紙資料9は、「令和6年度使用学校教育法附則第9条の規定による教科用図書（一般図書）採択候補一覧（案）」である。

別紙資料10は、「令和6年度使用仙台市立特別支援学校及び特別支援学級教科用図書（文部科学省著作教科書（小学部用）※一般図書を除く）採択候補一覧」である。

配付資料については以上となるが、その他参考資料として、「令和5年度教科書展示会アンケート集計（結果）」、「令和6年度使用教科用図書小学校の採択希望に関する資料」、「各団体からの要望書」等がある。さらに、各教科の教科書見本本と編修趣意書も机上に用意しているので、併せてご参照いただきたい。

教 育 長 ただいまの事務局の説明について、何か質問等はあるか。

（質疑なし）

教 育 長 質問等がなければ、初めに協議の進め方についてお諮りしたい。

まず、事務局から学習指導要領における目標や、協議会報告における各発行者の特長等について説明を受けた後、協議を行うこととしたい。

教科書見本本や報告書等の各資料については、事前に事務局がお届けし、すでにご覧いただいていることから、この場では閲覧の時間を設定せず、協議に十分な時間を取るようにしたいと考えている。

協議については、初めに各委員から、仙台市の採択方針の観点を踏まえて、協議会報告書や調査研究委員会報告書等を参考としながら、各発行者の教科書の特長や優れたところについて、発言いただきたい。

各委員から一通り意見をいただいたところで、4者以上の発行者がある教科については、各委員から推薦する発行者を3者挙げていただき、推薦数の多い上位3者

に絞って議論を深めたい。発行者数が3者以下の教科については、推薦の必要はない。

このような形で絞り込んだ発行者の中から、再度、仙台市の採択の観点に沿って意見をいただき、議論を深めながら、全員の合意のもと、1者に絞り込みたいと考えている。

最終的には、本日の議論を踏まえ、7月25日の定例教育委員会で確認のうえ、採択に係る議決を行いたい。このような進め方でご異議ないか伺う。

(異議なし)

教 育 長 それでは、小学校用の教科書については、本日以降このような進め方で協議を行いたい。

### 【音楽】

教 育 長 「音楽」について協議を行う。事務局から、学習指導要領の目標等について説明をお願いします。

教育指導課長 担当指導主事から説明する。

指 導 主 事 小学校「音楽」について説明する。小学校「音楽」では、表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方、考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成することを目標としている。

協議会において取りまとめた、小学校「音楽」の全発行者の特長は、別紙資料1報告の別紙1の3ページに示している。

主な特長について、A者は「考える」「見つける」「歌う」「演奏する」「つくる」のマークが学習のガイドとなり、児童が主体的に思考・判断・表現できるように工夫されているということである。

B者は「まなびナビ」「音楽のもと」で学習の手だてや活動における重要なキーワードが示されており、児童が主体的に学習できるよう工夫されているということである。

教 育 長 ただいまの事務局の説明に対して、質問があればお願いします。

(質疑なし)

教 育 長 ここからはこの2者について皆様から意見を頂戴し、議論していきたい。その後、皆様の合意のもと、1者に絞り込むという流れになる。それでは、各発行者の教科書見本本について、それぞれ委員の皆様から意見をいただきたい。

花 淵 委 員 A者については、仙台市内にも外国籍の児童が増えてきているが、多様な児童の姿がイラスト等で取り上げられており、そういったところへの配慮が見られると感じ、これは大切な視点だと思った。また、ナビゲート役のキャラクターに吹き出しがあり、吹き出しの内容が非常に効果的で、演奏してみたい、歌ってみたい、踊ってみたいというような児童の興味・関心を喚起するのに非常に効果的ではないかと感じた。

B者は、写真やイラスト、表現や活動の様子が非常に参考になる。実際に児童が演奏したり歌ったりする場合に、こういうふうによればいいというのがイメージできる写真やイラストがたくさん使われており、これは大変すばらしいと思った。また、6年生の最後の方では、青葉城等地域のことが取り上げられていたり、1年生では、国語で習う「おおきなかぶ」を音楽的に表現する題材もあり、他の教科との

関連も図られていると感じたところである。

梅田委員 A者は、冒頭に「学習マップ」が示され、1年間で学ぶ内容がつかみやすいということとともに、「きく」「演奏する」「歌う」「つくる」などがバランスよく配置されていて、音楽を聴いて楽しむだけでなく、音楽を作ることについてもわかりやすく示されている。また、日本の祭りばやし、伝統芸能が取り上げられていて、伝統文化にも親しめるような工夫がされていた。所々に児童が書き込めるページもあり、学びを振り返ったり、まとめたりする工夫もされていた。情報量も丁度よく、写真やイラストが見やすくバランスよく使われていると感じた。

B者については、見開きの部分で中学年以上は芸術家からのメッセージがあり、音楽に親しめる、興味を持てるような工夫がされている。また、鑑賞教材がふんだんに配置されていて、音楽を聴くということについても配慮がされていると感じた。「まなびナビ」などがあり、学習の手立てが示されているところも良いと思った。特に鍵盤ハーモニカやリコーダーの原寸大の写真が豊富に使われていて、児童が見ながら演奏を学べるような工夫がある。また、特に日本の歌については写真が非常に効果的に使われていて、情感に訴えるような写真の使い方が効果的だと感じた。

川又委員 A者だが、1年生向けの最初の導入として、表紙が漫画風のものが用いられ、また中身も漫画風になっていて統一性があり、低学年の児童が音楽に親しめる工夫がされていると思う。それから「学習マップ」では、1年間の内容や個々の学習内容の関連性が地図の形式で、立体的にわかるような工夫や、具体的に理解させるような工夫がされている。また音楽と日常生活、それから体を動かすこと、歴史、地理などとの関連性がよく書かれていると思う。それから和楽器の紹介に力を入れており、一般的な西洋の古典音楽だけではなく、伝統的な日本の楽器の紹介に力を入れて、親しみやすい教科書になっていると思う。

B者は、表紙や最初のところのイラストが童話風に統一されており、低学年の児童の導入がしやすくなるようになっていると思った。それから「学習マップ」では、学習の順番、流れが理解できるように整理されている。また、図版が非常に大きく工夫されており、特に折り畳みの大きいページがあり、音楽と自然の形式、詩、四季との関連性が図的に写真で表示されている。児童が音楽に自然と強く引き込まれるような工夫がされている。また、日本の伝統楽器の紹介に多くのページが割かれているのは、良いところだと思う。

後藤委員 A者について、知識量が多く、より専門的な知識の習得が期待できると感じた。また、君が代のページでは、国歌を聴くときの態度やマナーにも言及するなど一歩踏み込んで教えていると感じる。仙台市の採択の観点(2)にある生活や文化を理解し尊重する態度の育成に適したものであると感じた。

B者について、見開きで大きく写真を載せて美しいイメージを持たせるということで、視覚で捉えて、音楽を楽しむ工夫がされていると感じた。特に、低学年での音遊び、体をリズムに乗せて動かすといった工夫により、音楽を楽しませる意図が感じられ、仙台市の採択の観点(11)の主体的な学びというものが期待できると感じた。

山田委員 A者について、日本や海外、民謡や童謡など、様々なジャンルの楽曲が段階的に学べるように配置されていると思った。手遊びの説明から鍵盤ハーモニカ、リコー

ダー、打楽器、歌、合唱など、段階的に自分で音楽を奏でることができるようになっている。和楽器から洋楽器、弦楽器、管楽器など様々な音楽に段階的に触れるようになっている。著作権についても触れているのが良いと思った。また、二次元コードが同じ場所にあってわかりやすく、資料が豊富でバラエティーに富んだ内容となっている。

B者について、B者も同じく手遊びや鍵盤ハーモニカ、リコーダー、打楽器など様々な楽器を実際に弾くことと、それに加えて、フルートやバイオリン、オーケストラ、太鼓、琴など、様々な楽器の音を聴くということまで順序立てて組み合わせられている。また、多くの楽曲が載っていて、歌い方のポイントなどを指示しており、それも参考になると思う。また、写真が美しく、音楽と情景が重なり合うという効果があると思われる。

庄 司 委 員 A者について、表紙などで様々な人種の児童や動物が描かれていて、多様性を大事にし、優しい気持ちを育てるという意味で大変良いと思った。キャラクターの吹き出しが、とても興味が湧くような内容であり、児童が同じように思ったり、違う意見であったとしても、とてもわくわくするような内容だと感じた。日本と民謡めぐりでは、宮城県の宮城長持唄が写真とともに紹介されており、郷土の文化、音楽の継承にもつながると思った。

B者について、「まなびナビ」により学び方を知ろうというページがあり、大変学習がしやすくなっていると感じた。写真やイラストはそれぞれの曲が持つイメージをととてもよく表していると思う。6年生の「荒城の月」では、作詞者の半生にも触れられている。また、音楽を楽しむマナーとして、曲を作った方の権利を守ることが大切という非常に重要なことが記載されており、とても大切なことだと感じた。

教 育 長 一通り皆さんから発言をいただいたが、それぞれの発言を聞いたうえで、感じたことなどがあれば願います。

(意見なし)

教 育 長 それでは、「音楽」については2者から1者に絞り込んでいきたいと思うので、意見をお願いします。

花 淵 委 員 先ほど他の委員が触れていたが、B者では書くスペースが設けられている。これは、児童にとって書くことにより自分の学びを振り返ることができるというのもあり、指導する教師側としても、書いたところを評価に使える。また、書いたものをお互いに児童同士で共有し、いわゆる対話的な学びにもつながり、活動が広がっていくと思うので、この書くスペースというのは、良いと感じた。

後 藤 委 員 B者について、運指表のある見開きがあり、これは各学年の内容が同じではなく、学年が上がるにつれて情報量が増えているというのが、発達の段階に合った形でいいと思った。いきなり難しいものを見せられて混乱するということがないと思う。

梅 田 委 員 B者の方が、非常に楽譜が見やすく、良かったと思う。また、楽譜がふんだんに配置されていて、鑑賞はそうだが、それだけではなく、音楽や楽譜に親しむというような配慮もされているというところは、すばらしいと思った。また、ページ右端にポイントが示されていて、児童がページをめくっていくたびに、ポイントを確認できるというような工夫もされていると思う。

教 育 長 今までの発言からは、B者を推す意見が多いがいかがか。

山田委員 私はどちらもすばらしい教科書だと最初に思った。先ほど話したが、A者の方は二次元コードが同じところに載っているというのが一つのポイントだと思う。また、著作権などについても触れているのも特長かと思う。ただ、どうしてもこちらということではなく、私はどちらの教科書が選定されても良いと思った。

教育長 B者を推すという意見と、どちらも良いという意見があった。1巡目でも、例えば写真の使い方や、写真に載っているものとの関連性の話などがあった。また、様々な見やすさであったり、書くスペースがあるのが良いという話もあった。これまでの意見を総合的に見ると、B者が採択候補かと思われるがいかがか。

(異議なし)

教育長 それでは、「音楽」については、議論いただいた内容を採択の理由等として、事務局で整理のうえ、7月25日に最終的に決定したい。

### 【生活】

教育長 「生活」について協議を行う。事務局から、学習指導要領の目標等について説明をお願いします。

教育指導課長 担当指導主事から説明する。

指導主事 小学校「生活」について説明する。小学校「生活」では、具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方、考え方を生かし、自立し、生活を豊かにしていくための資質・能力を育成することを目標としている。

協議会において取りまとめた、小学校「生活」の全発行者の特長は、別紙資料1報告の別紙1の5ページ、6ページに示している。

主な特長について、A者は単元の冒頭で、学習活動をイメージできる写真や吹き出しを掲載することで、見通しを持ち、主体的、対話的で、深い学びができるように工夫されている。

B者は「気づく」「考える」「伝える」等の記載があり、見通しを持って学習に取り組めるほか、「何を感じたかな」のところでは、学習の振り返りができるように工夫されている。

C者は他教科で育成を目指す資質・能力と関連がある活動に他教科のマークを掲載し、効果的、関連的な学習活動が展開できるように配慮されている。

D者は国語の教科書と同じ縦書き表記と右開きにすることで、低学年の児童にも抵抗なく、読み進めることができるように配慮されている。

E者は書き込みや気持ちマークを書くスペースが随所に設けてあり、入門期の児童が思いを言語化し、学習の記録をすることができるように工夫されている。

F者は鉛筆で書きやすい紙質や、切り離し可能な図鑑と別冊の辞典が様々な形式の授業を想定して取り入れられている。

G者は学習の見通しを持ちやすいように、表紙の裏に年間を通した単元が示されているほか、発展的な学習につながるように、単元ごとに「ものしりノート」が配置されるなどの工夫がされている。

教育長 ただいまの事務局の説明に対して、質問があればお願いします。

(質疑なし)

教育長 それでは、各発行者の教科書見本本について、皆様の意見をいただきたい。

梅田委員 どの教科書についても装丁は工夫され、ページの使い方も非常に工夫されている

と思う。巻末の資料についても、各者の工夫を凝らした内容であったと思う。また、先ほどの「音楽」でも話題になったように、多様な児童の肌の色の違いであったり、障害のある児童であったり、どの発行者もそういったイラストが随所に見られて、工夫されていると感じた。

A者について、これは他の発行者にもあったが、目次の後に入学当初の導入ページがあり、入学当初のまだ学校に慣れない時期に、学習に親しんでいくことができるように工夫されている。また、目次は色で季節が示されてわかりやすくなっていると思う。各単元の項目に「考える」「感じる」「見つける」などといったテーマがマークを使って示されていてとてもわかりやすいと思う。学習時の約束、手洗いなどもわかりやすく示されている。巻末に「かつどうべんりてちょう」の形で説明がまとめられている。特に特長的なのは巻末に実物大の図鑑があり、児童が外での活動でも使えるような工夫がされている。

B者について、目次が月ごとに示されていて、月ごとに何を学ぶかということがわかりやすくなっている。導入のページに入学後の生活が丁寧に示されている。上巻と下巻で「みんななかよし」「なかよくひろがれ」という継続したテーマが展開されていて、2年間でどういう学びをしていくかということが系統的に考えられていると思った。SDGsについても触れられていて、「学びのポケット」などで追加情報も加えられている。見出しのフォントにUDフォントが使われていてとても見やすいと感じた。右ページの端に「できるかな」「やくそく」「ヒント」などという項目があって、めくっていくときにわかりやすく示されていたと思う。

C者について、冒頭に2年間で学ぶ内容がわかるように示されている。入学前の幼稚園、保育園の年長の生活にも触れていて、導入がスムーズになるように工夫されていた。全体を通して「わくわく」「ぐんぐん」「いきいき」などというテーマが示され、それに従って内容が配列されていて、つながりが非常にいいと感じた。こちらも図鑑が効果的に配置され、タブレットの使い方も丁寧に説明をされていた。写真や絵も見やすく効果的に配置されていた。

D者について、冒頭に「1年間でやってみたいこと」が出てきて、児童が目標を持って学ぶことができるように工夫されている。季節と暮らしを関連させて年間の単元が展開されているため、四季のある日本を意識することができ、年中行事も随所に取り込まれていて、日本の生活を意識しながら学べるようになっていく。家庭での暮らしと結び付けた内容があり、児童にとって身近なものを学んでいくという意味でも親しみやすいと感じる。また、大きく開けるページがあり、ダイナミックな絵が展開されているのも、興味を引くところだと感じた。

E者について、目次の前に導入のページがあり、まず興味を持ってそこを見ることから始められると感じた。また、生活科の学び方というものも示され、この教科はどのような学び方をしたら良いのかがわかるようになっている。それぞれの単元の内容については、活動内容がとてもわかりやすく、テーマのように示されているので、児童が何を学ぶかつかみやすいと感じた。また、自分の考えや友達の意見などを、マークなども使いながら記入するスペースがあり、その時の自分の気持ちを書き込むことができるということも、特長だと感じた。「がくしゅうどうぐぼこ」というページがあって、追加情報が整理されている。写真とキャラクターの使い方も効果的だと感じた。



F者について、表紙にある「はじめてがいっぱい」や「はっけんだいすき」などのテーマが活動内容をよく示していると思う。目次は、学ぶ季節がわかりやすく示され、季節によって学ぶ内容が変化していくということがつかみやすく工夫されていたと思う。ページの左に学ぶテーマが示され、左上に活動内容が示されているので、児童がページを開いたときに、ここで何を学ぶのかということがわかりやすくなっている。また、2年生の最後には3年生の学習内容につながる部分が示され、継続的に指導できるような工夫がされている。「振り返ろう」という項目もあって、児童が学びを振り返って、まとめることができるように工夫されている。巻末には写真のページが図鑑として準備されていて、外での観察や様々な学習に活用できるようになっている。イラストや写真が大変効果的に使われ、装丁も工夫されているので、様々な形の学習で活用が期待されるのではないかと感じている。

G者について、最初の目次が月ごとのつながりで示されているので、1年間で何を学ぶのかがつかみやすうと感じた。学校生活の開始から季節の暮らしまで、バランスよく内容が配置されていると思う。単元ごとのテーマが最初に明確に示されているので、児童にとって何を学ぶのかがわかりやすうと感じた。また、文字だけではなく写真でも何をするのかがわかるような工夫がされている。活動の内容については注意事項も掲載されていて、意識しながら、学ぶことができるようになっている。タブレットやデジタルカメラの使い方についての説明もあり、「ものしりノート」で追加情報も整理されている。キャラクターや写真も大変効果的に使われていると感じた。

川 又 委 員 A者では、最初の部分に「生活」という科目の役割について、「つながる」「ひろがる」というような考え方で説明されている。「ほんとうのおおきさいきものずかん」というものがあり、いろいろな生き物についての実感が湧くような構成になっていた。全体として図版が大きく見やすくなっており、非常にすっきりした紙面構成になっていると思う。それから、いろいろな登場人物、イラスト等が出てくるが、非常に自然で、生き生きとした表情の人物が出ているところは好ましいと思う。また、教科書の中で、教室での活動だけではなく、教室外の様々な活動内容が多く取り上げられているということは、非常に好感が持てる。

B者では、いろいろな写真、挿し絵等に関して、多様性のある人物が配置されており、「生活」という科目の中で学ぶ社会の広さや多様性に配慮された工夫がされていた。それから「学びのポケット」という欄では、他の学習内容との関連性がよくまとめられていると思った。また「はてな」のマークによって、児童に自ら考えさせたり、自ら質問が出せたりするような工夫がされていた。

C者について、入学当初の学校がとても楽しいということをうまく導入していて、児童が入学することへの期待を膨らませる構成がされている。それから、内容の分類として「わくわく」「いきいき」「ぐんぐん」という3種類があり、これによってどのような内容かが直感的にわかるようになっている。また、防災、事故、虫等のある意味では危険な要素についても教えているところが、非常に重要なところであると思う。

D者について、縦書きの表記になっており、低学年の児童にとって、科目に接しやすう教科書になっていると思う。それから多数の折り込みのページがあり、いろいろな社会や学校、人間関係等の様々なテーマに関して、大きな空間、大きな視点

から物事を俯瞰するような構成になっているところがすばらしいと思った。また、地域に密着した内容が盛り込まれているというところが、D者の出版方針ということで、これは非常に評価すべきところであるというふうに思っています。

E者について、紙面全体として、空白や余白がうまく生かされた体裁になっており、児童が書き込んで、一緒に教科書を作っていくというような考え方で、教科書が作られていると思います、この点は評価する。それから、教科書で文字が小さいページが多数あるが、これは文字で読ませるということではなく、図版や写真で内容を伝えようとするという考え方だと思われ、入学した児童には非常にわかりやすい紙面構成であると思う。また、ICT機器の利用など、現代的な教育の導入についての説明もあり、この点も評価すべきところであると思う。

F者について、イラストが素朴な形で描かれていて、これは目を引き、児童にも、この大きな写真と美しい印刷の効果が非常によく伝わるだろうと思う。ページの紙質が書き込みがしやすくなっており、児童がこの科目に直接的に入っていけるような紙質になっているところが特長かと思う。また、児童の意欲や疑問、質問というものをよりよく引き出すような表現が多数あり、その点が工夫されていると思う。内容としては、災害や交通の危険性、通学の危険性や安全性など、安全面だけではなく、社会生活の危険性についても言及されているところは、重要な特長かと思う。

G者について、遊びと仕事とに分けて「生活」の内容を説明しており、遊びから「生活」の学習に入っていくようなスタイルであり、この点はとても良いところだと思う。それから、交通安全、交通標識、通学時の問題、災害等に関して、日常生活のいろいろな危険性や問題に関して説明がされており、それが大きな特長になっている。

後藤委員 どの教科書も、幼稚園等から小学校に入ってきたばかりの児童が無理なく「生活」という教科に入るような展開、導入部分だった。車椅子の子や多国籍の子どももいるといった多様性への配慮も随所に見られる教科書だと思う。

A者は、種から花へと成長するところの見せ方がとても工夫されていて覚えやすい教科書だと思う。右上の小さいマスの絵もわかりやすい。情報量が適切であり、仙台市の採択の観点（6）の教科における基礎的・基本的な内容の確実な習得というものが大変期待できる教科書であると感じた。

B者は、「わくわくスイッチ」というところのチャートで一人一人にイエスかノーかを聞いたり、「かぞくにここに」とか「えがおのひみつ」など言葉が用いられていたりするということで、より児童の気持ちへの働き掛け、感情の部分へ働き掛ける言葉が見られる教科書だと思う。とても温かい教科書だと思う。

C者は、ICTの活用やデジタルブックをはじめ、二次元コードのコンテンツが大変充実していて、配列がすばらしいと思った。「がくしゅうずかん」の情報量も豊富である。例えば「どんぐりの時間」では、どんぐりにどんな種類があるのかということは各教科書で紹介されていたが、C者はそのどんぐりの中身まで見せているところが、発展的な学習に配慮している教科書と感じた。また、交通安全学習についてもポイントを踏まえていて、安全のために伝えたいことがよく伝わる内容であると思った。

D者は、とても美しい写真が多く、地域に目を向けさせ、自分の生活する環境、

生活習慣や身の回りのことから、「生活」という教科を学ばせようとしている姿勢がとてもすばらしいと思った。

E者は、上巻と下巻で見せ方を変えている教科書であり、とても上手な配列だと思った。上巻では写真によってワクワク感やドキドキ感、興味・関心を持たせたり、2年生では「町のキラリさん」や「自分はっぴょう会」のように、自主的に対話的な学びをさせる仕掛けがあり言語活動を充実させるための学習が展開できるように配慮されていると感じた。また、主体的・対話的な学びも期待できると思う。

F者は、身の回りのことをこの教科から楽しもうという、とても肯定的な思いが伝わる教科書である。いろいろな人がいるのだということで、仙台市の採択の観点(3)でいう他人を思いやる心、美しいものや自然に感動する心などが育つように配慮されており、人権を尊重することにも配慮されている教科書だと思った。

G者は、動植物を飼育する際のアドバイスや遊び方の例について一步踏み込んだ具体的な内容が提示されていて、情報量が多いが、実際に飼育するためにはとても役に立つだろうと思った。そのため、この教科書であれば自主的に学習を深められると思うし、そのための工夫が見られると思った。

山田委員 今までの意見にもあったとおり、どの教科書も最初に幼稚園等から小学校に入ってきて、自然になじみやすいように入口が設定されていると感じた。

A者は、身近な学校内から始まり、2学年の学習では町に出て地域のことを調べていくという流れになっており、段階的に学習が進められるようになっている。また、四季の変化に応じた生活や遊び、自然について学べる構成になっていると思う。花・種・葉っぱがページをずらして重ねて見えるような工夫がされ、非常に見やすく覚えやすく、また、写真や挿し絵がカラーで鮮明に印刷されていて、読みやすいと思った。

B者は、單元ごとに「気づく」「考える」「伝える」「自分でできる」「挑戦する」などといった順序立てて考えるような工夫がされている。また、「わくわくスイッチ」で考え方や学習の進め方を示し、「はてな」で疑問を持って、最後に何を感じたかまとめるという流れになっているのがわかりやすいと思った。また、教科書の端に異なるマークが示された二次元コードが配置されていて、見やすいと思う。

C者は、「わくわく」「いきいき」「ぐんぐん」の三つの段階で構成されていて、順序立てて学習を進めて、活動の広がりや深まりというものができるように構成されていると思う。また、「びっくりずかん」「がくしゅうずかん」「デジタルたんけんブック」など資料が非常に豊富に掲載されていて、写真が多くて見やすいと思う。また、二次元コードの位置も統一されていて良いと思う。

D者は、各季節の自然とともに生活する人々の暮らしの様子が示されていて、ある意味で教えすぎない、先回りしない、児童自らがどう感じるかが重要視されているような印象を受けた。日本の端午の節句や七夕など、季節の行事も重要視していると思った。

E者は、目次が見やすく配置され、自分の考えを書くスペースがとられていて、自主性を育てていると思う。また、「がくしゅうどうぐばこ」に豊富な資料が掲載されていて、基本的な知識とや技能の習得が図れるようになっている。

F者は、單元ごと左に目的、左下にヒント、右にどう思ったかという配置が統一されていて、児童にはわかりやすいと思う。また、「こんなことあるかもね」という

ような視点が特長であり、児童にとって素朴な疑問というのが親しみやすく、自ら考える力を育てるように配慮されていると思う。また、最後の厚手の光沢紙の写真では季節ごとの花、鳥、虫などが載っていて、きれいで見やすいと思う。

G者は、目次に何月に何を学ぶかということが見やすく書かれていると思う。また「発見カード」や「インタビューカード」など、他人と積極的にコミュニケーションを図り、自分の考えを書きすることができる工夫がされている。「学び方ずかん」で自主的に活動を行うための方法や考え方が記載されていて良いと思った。

庄 司 委 員 7者すべてに共通して言えることは、車椅子の児童、肌の色の違う児童や他の国籍を持つ児童などが出てくるということで、多様性についての理解が見られたと思う。

A者は、「かつどうべんりちょう」の内容が大変充実していると感じた。「がっこうせいかつスタート」のページは、大変めくりやすくなっていて、大きな写真、イラスト、吹き出しの使い方がとても良いと感じた。

B者は、防災について、安全を守る施設というところで大変詳しく取り上げていて、防災教育に大変配慮されているものと感じた。

C者は、「スタートブック」が大変見やすく良いと感じた。また、防災の学習では、防災だけで終わらず、そこから自然へと内容が深められているところが大変良いと感じた。

D者は、縦書きの右開きになっており大変見やすく感じた。教科書のサイズも少し小さめで、今は教科書がすべて大きいので、持った感じもすごくいいと感じた。また、四季がある日本での生活に結び付いた行事を多く取り上げており、経験を通じて学びを深めていける流れになっているところもすばらしいと感じた。

E者は、初めは文字が少ないけれども、文字の表現について、徐々に増えていくというイメージで、学校に入ってすぐの児童が、少しずつ慣れていくには、とても優しくいいと感じた。また、書き込みや気持ちマークを書くスペースがあり、児童それぞれが、大変表現しやすいと思った。

F者は、「こんなこともあるかもね」や「どうしてなんだろうね」といった、一歩進んだ気付きの提供というのがある、とても良いと感じた。また、防災や緊急時の行動についても多くの記載があり、防災や緊急時のことは、その時になってからでは遅いので、日頃から防災意識を持つことができるよう配慮されていると感じた。

G者は、「ものしりノート」のというのがあり、次のステップへスムーズに進めるところが、大変いいと感じた。

花 淵 委 員 皆さんと重複するところがあるが、A者は、仙台市の「子ども110番」の写真があり、仙台市の児童にとって身近に感じることができると思った。それから、幼児期との連結や中学年との接続を意識した配列も、生活科としてはつなぎの部分であるので、非常に良いのではないかなと感じた。

B者は、「わくわくスイッチ」や「ぐんぐんはしご」が、児童の興味・関心を喚起するのに非常に効果的ではないかと思った。また、地域と活動を結び付けて実感を持たせる、実感を伴って学ぶことができるというように、学校や教室にとどまらず、地域の中に飛び出して行って、児童が学習をするということを促しているのが良いと思った。

C者は、教材一つ一つに流れがあって、大変良いと思った。また、「わくわく」「いきいき」「ぐんぐん」についても非常にわかりやすく、先生方が実際に指導する場合にも、非常に参考になるのではないかと思う。

D者は、暮らしや四季の変化に沿った配列になっていて、とても良いと思った。また、比べたり、試したりしながら、気付きの質を高めることができるのではないかと思った。

E者は、作業や書き込みがしやすい紙質だと感じた。また、生活科の特質である五感を使った学習を誘っていて良いと思った。個の興味・関心や気付きから、それを仲間や友達と交流することによって更に高めていくというような流れになっていて大変良いと思う。また、1年生の82、83ページに白黒のページがあり、全てカラーの教科書の中でこの白黒のページが印象に残る効果もあると感心した。

G者は、防災倉庫や避難所が取り上げられ、生活科の中でも自助・公助・共助の中の自助の部分を意識させるのにいいと思う。また、生活科の内容を独自の視点で「探検」「遊び」「飼育・栽培」「家族」「成長」という五つに分けてあり、これも非常にわかりやすいと思った。

F者は、学校内外の様々な人と一緒に活動、協働するように提案しているというところを意識して作られている。また、見開きのページが書き込みできるように工夫されていて、非常に良いと思った。

教 育 長 皆様から7者の特長について一通り意見をいただいた。それぞれ工夫されていると思うが、冒頭に申し上げたように、この後の進め方としては、皆様それぞれが3者を挙げて、推薦の多かった3者に絞った形で、もう一度議論いただきたいと思う。

梅 田 委 員 どの発行者も工夫されていると思うが、A者、E者、F者。

川 又 委 員 A者、D者、F者。A者については、地域や自然、社会に本当に密着した内容で、仙台市に適応するかどうかはわからないが、このような出版の姿勢や考え方が非常に重要だと思う。

後 藤 委 員 A者、C者、G者。

山 田 委 員 A者、B者、C者。

庄 司 委 員 A者、B者、F者。

花 淵 委 員 私は版の大きさも影響すると感じ、A者、B者、F者。

教 育 長 各者それぞれ様々な工夫がされているところだが、皆さんから伺った中で、A者、B者、F者の3者を推す方が多かったので、この3者に絞って改めて意見を頂戴し、最終的に1者に絞っていきいたいと思う。その他確認したいことなどあれば伺う。

川 又 委 員 教科書の大きさについての話があったが、教育や教科書の使い方に影響はあるか。

花 淵 委 員 大きければいいというわけではないが、当然大きいと情報量が多くなるということ、それから文字を大きくできるということがあると思うので、版の大きさも考慮に入れたほうが良いと、個人的に思ったというところである。決して小さいから悪いというわけではない。

教 育 長 その他何か確認をしておきたいことがあればお願いします。  
(意見なし)

教 育 長 それでは、先ほどの3者の中から1者に絞り込んでいくことになるが、この中からどれかということも含めて、皆様から意見をいただきたい。

川 又 委 員 小学校での教員経験がある委員がいるのでお伺いしたいが、F者の教科書のイラストが非常に個性的で、小学生から見た感じはどうか。そういった点というのは、実際の教室で影響が出てくるのか。

花 刈 委 員 F者のイラストは2、3頭身ぐらいになっていて、これはこれでかわいいとは思いますが、実際こういう児童がいるかといえはいいない。それに比べて、A者、B者は実際の児童に近いイラストになっている。

少し違う視点になるが、F者の一番後ろについている「ひろがるせいかつじてん」と写真をきれいに切り離しできるところが、非常にきれいなのですが、1年生の教科書にしては、他のA者、B者に比べると重いかなどというような感じがして、そこについて皆さんの意見を伺いたい。

教 育 長 イラストや教科書の重さなどについて意見を願います。

梅 田 委 員 イラストに関しては以前の委員会の際に話が出たように、教科書を教えるのではなく、教科書を使って学ぶということである。どの発行者もイラストばかりではなく、B者も絵本等でなじみのある黒いキャラクターが出てきていて、ページ構成もかなり工夫されているところがあるので、その教科書を使ってどう教えるかということになるので、私自身はあまり気にならないと思った。

私は3者の教科書を持ったときに、確かに重いということあるかもしれないが、今すべての教科書を持って帰るためにいろいろ配慮されている。そうすると、児童が見るときに、F者は、表紙などがしっかりした紙で作られていて硬く、持ちやすいというのはあるかなと思った。

山 田 委 員 これは審査の基準ではないかもしれないが、B者は少し臭いがきつく、私は気になった。ただ、内容的にはB者が良いと思っていて、難しいところであるが、その辺りはいかがか。

指 導 主 事 協議会や調査研究委員会において、B者の教科書について、特に臭いの話題は出なかった。

教育指導課長 教科書に使われているインクの種類、それから紙の質や材料、製本時に使われているいわゆる製本用のりなど、そういったものについては各者様々ではあるが、化学物質アレルギーなど一定の配慮、あるいはそうした影響のないものを使用している。

それでも、学校現場ではそういった物質に敏感な児童もいるので、例えば臭いが気になる場合については取り除くなど、軽減させるような処置を施した上で教科書を給与する対応を取っている。

庄 司 委 員 F者の教科書の中に丸文字というか手書きのようなところが何か所もあり、F者は内容的には大変良いと思っているが、丸文字は、こういう教科書としてはどうなのか。現在の教科書事情も少々わからない点があるので、今現在、こうした教科書が実際にあるのかどうかわかれば教えていただきたい。

指 導 主 事 例えばF者のどのページが該当するか。

庄 司 委 員 69ページであれば、「どうしてなんだろう」「なんでなんだろう」というところのそれぞれの会話のところ、活字ではなく手書きのような文字になっていて、そういうのがあちこちに見られる。

指導主事 協議会や調査研究委員会では、イラストに付随したこの手書き風の文字については話題にはなっていなかったが、今委員から指摘のあったところだと、特に小学校入学時や低学年の児童にとって、国語の学習に関わることであり、極力正しい書体に準じたものを、児童の目に触れさせた方が良いのではないかという配慮もあるのかと思うが、こういった書体で表すことが教育的な効果も含めて正しいのかという判断は難しいところである。

後藤委員 F者のイラストに関して、おそらく児童には、セリフの字体も含めて、一つのキャラクターとして認知されているものなので、素直に受け入れられると思う。例えば、ドラえもんがナビゲートしている教科書もあったが、同じような感じで受け入れられると思う。確かに、文字についてそうした観点はあると思うが、変な文字や間違ったひらがなではないと思った。

個人的には、A者の一番後ろにある「ほんとうのおおきさいきものずかん」が大変良いと思い改めて見たが、色合いが優しく、あまりきつくない。他の発行者も取り上げているが、誰の身の回りにもある草花を原寸大で取り上げているのは、子どもたちに興味を持ってもらえるのではないかと思った。

教育長 これまでの議論や今の質問も踏まえて、皆さんそれぞれどの発行者が良いか、もう一度意見をいただきたい。

花淵委員 A者の1年生の34、35ページにある「かんさつずかん」が、生活科では大事なところである。いわゆる他の教科と違い、生活科の場合には、こうしたポートフォリオ的な、それぞれ観察したものを積み上げていき、それを学習の記録にしていくことが非常に多いが、実際の書き方や視点、どんなところを見ればいいのかなどは、もちろん先生方も教えるが、実際このページだけで1時間ぐらい使ってもいいぐらいに非常に大事なところだと思う。このページの前のポートフォリオのところは短いカードになっているが、こんなことを書くんだよ、見るのはこんなところなんだよということが非常に具体的に書いてあり、今後の生活科以外の学習にも生かされていく。総合的な学習の時間であったり、理科や社会科に発展していったときの基礎となる部分なので、ここは非常に大事なページである。

梅田委員 やはりどの発行者も考えて作ってあるので、選ぶのが難しいと思った。A者は配置や写真などの使い方がバランスよく作られており、先ほど後藤委員もおっしゃったように、巻末の実物大の図鑑は、児童にとっても興味を引くものと感じている。

F者は、こんな見方もあるという、児童の疑問や違う考え方をとても大切にしている、そういういろいろな考え方を持っていていいんだ、伝えていいんだということ大切に考えた教科書であり、なかなか甲乙つけがたいなと感じている。

B者は、先ほど言った黒いキャラクターが結構ポイントとなっていて、学習をナビゲートしてくれているので、その辺りも難しいと感じているのが正直なところである。

川又委員 個別の教科書の推薦順位の話ではないが、少し内容に戻ってもよいか。例えば、F者には、付録の内容で、安全に関しての標語「おかしも」や「いかのおすし」などがある。これはF者が独自に考えたものなのか、それとも日本全国の小学生であれば、一般的によく使われているのか知りたい。一般的な大人の世界であれば、いろいろな標語やことわざなどがある。非常にわかりやすく、ユニークだと思うが、低学年の児童の場合に、これはF者独自のものなのか、それとも日本全国で一般的

に使われているのか、その辺りはいかがか。

指導主事 「いかのおすし」や「おかしも」は、どの学校でも、避難するときの約束としてよく使われている言葉である。

後藤委員 「いかのおすし」は皆が分かっていると思うが、「おはしも」や「おかしも」はそれほど周知されていないところがあり、「おはしも」という教科書もあれば、「おかしも」もある。ただ、どちらかでは皆が分かっている。

教育長 それでは、1者に絞り込んでいきたい。どこが良いかということも含めて、意見をいただきたい。

花淵委員 A者の最初の「がっこうせいかつスタート」というページが、他ではないぐらいの分量をとって、学校と幼稚園・保育所の違いや、学校ではこんなことをするといった内容、幼稚園や保育所よりもずっと大きな集団になるということ、働いている人や給食があることなど、接続のところを丁寧に扱っているところが、1年生にとって大変良いと感じた。他の発行者と違うところを見つけたほうが良いと感じたので、述べさせていただいた。

川又委員 私は、A者が全体としては優れていると思う。それほど癖もなく、図版や文字も読みやすくなっており、どんな児童にもうまく合い、これを使って勉強することで、支障は全く出ないものと思う。

山田委員 F者の「こんなのもいいかも」や、4コマ漫画ではないがこれも非常に捨て難いと思っていたが、全体的なバランスだとA者は読みやすく、かつ、他の委員からも意見があったがバランスが良い。

庄司委員 私もA者が良いと思う。皆様もおっしゃっていたが、一番初めの「がっこうせいかつスタート」のところが、ページを取って、大変丁寧に書かれているところが良いと思う。他の発行者でも実際にそういったところが書かれているが、幼稚園・保育所とは違った小学校というところで、たくさんの友達と学校を楽しく過ごす意味でも、スタートは大切なので、丁寧に書かれているというところで、A者を推したい。

後藤委員 私もA者が良いと思う。アプローチの仕方がF者と比べても全く違う形のものであると思うので、児童が理科、社会に繋がっていく生活という教科を学ぼうと思ったときに、先ほど花淵委員もおっしゃっていたが、しっかりと学びたいところがきちんと載っているのはA者である。

教育長 皆様から一言ずつお話いただいたが、皆様に触れていただいたのがA者だった。幼稚園・保育所の生活からのつながりや全体的なバランスという話もあったかと思う。また、総合的に見てということも含めてA者が採択候補かと思うがいかがか。

(異議なし)

教育長 「生活」については以上ということで、今日議論いただいた内容を採択理由として、事務局で整理のうえ、7月25日に最終的に決定したい。

ここで15分間休憩を取り、午後4時5分に再開する。

(休憩)

#### 【保健】

教育長 「保健」について協議を行う。事務局から、学習指導要領の目標等について説明をお願いします。



教育指導課長 担当指導主事から説明する。

指導主事 小学校「保健」について説明する。小学校「保健」では、体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持、増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成を目指している。協議会において取りまとめた小学校「保健」の全発行者の特長は、別紙資料1報告の別紙1の7ページ、8ページに示している。

主な特長について、まずA者は、イラストや写真に含まれる子どもたちの服装に性差がなく、共生社会の実現や多様性の尊重に向けた学習が展開できるように配慮されている。1単位時間2ページを基本とした3ステップの学習活動で構成されており、見通しを持って学びに向かえるように配列されている。

次に、B者は写真や資料を豊富に掲載したり、章の初めには4コマ漫画を取り入れたりするなど、児童にとって親しみやすい表現になっているとともに、国内や世界で活躍するプロアスリートやクリエイターからのメッセージを取り上げることで、児童の興味・関心に基づいた学習ができるように工夫されている。

次に、C者は記述欄の数を抑え、チェック欄を多く設けることで、どの児童も安心して学習の振り返りができるように配慮されている。また、単元の最後に学んだことを自分の言葉で宣言するような活動が設けられ、発展的な学習につながるように工夫されている。

次に、D者はいじめ問題や思春期の悩みを取り上げ、その対処法などが多く盛り込まれており、本市の命と心を守り育む教育に合致した内容になっている。また、自分の考えを記述する欄が豊富に設けてあるなど、学習ノートとしての機能も有しており、言語活動の充実が図られるように工夫されている。

次に、E者は障害がある人や、様々な人種が関わり合うイラストや資料を多く取り入れ、人権尊重の心を育むことを重視した内容になっている。また、友達の意見を基に、自分の考えたことやわかったことを書く欄を設けるなど、言語活動を促すとともに、学びの蓄積ができるように工夫されている。

次に、F者は生活の身近な場面や行動の中から、予防について主体的に考えることができるように配慮されています。また、ユニバーサルデザインフォントを使用し、ページの左側に学習段階を示すガイドを掲載したりするなど、児童の見やすさ、学びやすさに配慮されている。

教育長 ただいまの事務局の説明に対して、質問があればお願いします。

(質問なし)

教育長 それでは、委員の皆さんから、発行者ごとの特長について意見ををお願いします。

川又委員 A者は、保健で扱う体と心の発達や変化について、見通しよく、順序よく説明されていると思う。また、体と心の健康と病気についても同様に、順序よく体系立てて説明されている。また、現代的ないろいろな保健の問題である感染症や生活習慣病、薬物などについても一つの章を構えて詳しく説明している。一方で、日常的な問題である自動車の事故、自転車によるけがなどについても十分な紙面が割かれている。それから、スポーツや文化人へのインタビュー記事が章の最初にあり、児童の興味を引くような工夫がされている。

B者は、児童が書き込む記入欄が充実しており、書き込むことにより、言葉によ

って保健の内容を理解する工夫がされている。一方で、写真とイラストも非常に豊富にあり、親しみやすくわかりやすい構成になっている。それから文化人、スポーツ選手からのメッセージが効果的に配置されており、保健の内容の重要性が児童によく伝わるようになっている。

C者は、病気や健康に関して、様々な写真やデータによる比較がなされており、保健的な内容に関して非常に大きな注意喚起をするような内容になっている。また、多数のチェック欄があり、このチェック欄を用いることによって、児童の保健の内容の学習効果を上げるような工夫がされている。それから、安全性や事故、犯罪などに関して、データが重視されており、社会的な考え方や科学的な考え方により、保健の内容を理解させようという工夫がされている。

D者は、図版や写真、グラフの大きさ、配置等が非常に自然である一方で適切な空白もあり、非常に読みやすい紙面構成になっている。また、体の発達や病気を科学的に捉えるという姿勢が重視されていて、「科学の目」という項目もあり、科学的な視点が強く打ち出されている。それから、書き込み欄も非常に多くあり、児童が授業の時に主体的に取り組むような工夫がされている。

E者は、現代的な意味での多様性のある人物、キャラクターが登場して、非常に広い社会的な視点から保健について説明がされている。また、記述の方法として、文章の穴埋め、グラフや表、計算が充実しており、児童が主体的に教科書を使って効率的に学習ができるような工夫がされている。それから、けがや病気、応急措置等の連絡方法、相談方法の窓口に関しての記述が充実している。また、SDGsの目標と保健の様々な内容についての対応が記述されているところが特長である。

F者は、折り込みページや切り取りのページ、切り取りのカードのような、教科書のページに様々な工夫がされており、児童の興味を引くような教科書の体裁となっている。また、章ごとに最初と最後に記入欄があり、授業への最初の取り組み、授業を受けた後の考え方の変化、そういうものが明らかに分かるような構成になっている。それから、感染症、生活習慣病、薬物、精神疾患などに関する問題についても幅広く研究がされている。

後藤委員 保健の学習に関しては、私たち保護者が期待するところがとても大きく、学習効果が大きいと思っている。児童の健康を守る学習だと思うので、そこはしっかり学んでもらい、学習効果を期待する教科書である。

A者は、構成が大変見やすく、学びやすいと思った。36、37ページにある「もっと学びを広げよう・深めようのコーナー」のインターネットについてのまとめがとても上手で、2ページ弱のコーナーだが、児童に伝えたいことがはっきりとわかり、これはとても良いと思った。そこでは、ながらスマホについても触れられていて、こういったことをきちんと教えるのは必要だと思ってこの教科書を見た。自分の考えを記述させるスペースもとても良いと思い、温かい言葉掛けや、個の違いへの詩の引用などもあり、伝えたいこと、伝えたいことを入れている教科書である。

B者も要点を大変上手にまとめていて、各ページの構成が見やすかった。ゲーム依存やインターネット、ながらスマホにも触れていて、現代の問題も提示されていて、そこから発展的に自分たちがどう健康に生きるべきかということを考えさせるような内容である。3、4年生の記述の欄には、「大切だと思ったことは何か」や「もっと頑張りたいことは何か」というように、肯定的な声掛けをして、考えを発

展させるような仕組みが見て取れた。

C者は、心の健康にもフォーカスしていて、不安や悩みに寄り添い、自分で自分の心をコントロールできるようにという視点から、健康を考えているところが、これからの学びとしては良いと思った。体の変化では、父親や母親の経験談として様々なアドバイスを載せ、自分の体の変化を家族と情報共有するように促しているところも、とても良い教え方である。

D者は、自分の考えを記述させたり、考えを深めさせたりする工夫が見られた。「例を挙げて話し合おう」などの問いがあり、言語活動を充実させる、発展させる学習ができるよう配慮されていると感じた。

E者は、一つの単元が四つのステップからなっており、配列が見やすくわかりやすかった。「調べる・解決する」の身長・体重の図は、一見して理解できる作りだった。そういった細かい工夫がされていて、とてもすばらしいと思った。

F者は、知識としての情報量が多く、学びになる教科書だと思った。身長グラフや計算は、どの教科書でもある程度算数と関連付けて、他教科との横断的な学習に着眼しているが、特にF者は、算数との関連を強く打ち出しているという印象を持った。

山田委員 A者は、「課題をつかもう」「考えを話し合おう」「まとめ」という順番で学習を進められるようになっていて、「話し合おう」では、互いの考えを共有したり、対話的な活動をするというところに重点が置かれていると思った。また、二次元コードの位置がページ右下に固定されているのでわかりやすい。写真やイラストも多く、事故の原因やけがが起きる場所などのデータも多く載せてある。

B者は、学習の進め方を最初に示していて、各章に「広げよう」「深めよう」とあり、発展的な学習ができるようになっていて、各章の最初に漫画があり、「何のために必要なの」というような問い掛けから始まるのが、非常にわかりやすい。また、生活や健康に関する様々な情報がそれぞれの章に系統立てて紹介されていること、単元ごとに書き込む部分があり、周りの人の意見や自分の考えについて対話を通していろいろ書くことができるというのが重要なポイントである。

C者も同じだが、一番初めに問いや課題として出されているものを基に学習活動が展開されることで、思考が整理され、つながるという流れになっている。また、文字やイラストが大変見やすくレイアウトされている。それから、紙質が比較的厚く、複数年間使うのにしっかりしていて良い。また、単元の最後に自分の言葉で学んだことを書くような構成になっていて、主体的な学びにつながっていると思う。

D者は、学習した内容からグループで話し合う活動や、自分で考えたことを記入する欄が多く設けられていて、自主的に学習が進められるような工夫がされている。また、最後の「発展」や「ほけんのはこ」に多くの情報があって、発展的な資料や情報を得るのに良いと思う。喫煙や飲酒、薬物の害などの説明も、データを表示しながら詳しく説明がされている。

E者は、いろいろな資料が項目ごとに多岐にわたって記載されていて、情報が多くて良い。自分から進んで学習するように、最初に学習の進め方を明示していて、わかりやすいと感じた。また、表示について、重要なポイントの文字が太字になっていて見やすく、災害の写真やウイルスの写真、記事、グラフなどが見やすく配置されていると思った。

F 者も、様々な分野にわたって情報量が多く表示されていると感じた。また、教科書の使い方が最初に明示されていて、最初の「とびら」や「学習ゲーム」で気付きがあり、各項目の学習をし、「もっと知りたい」では様々な情報が表示されており、最後の「学習のまとめ」で、それぞれの項目で自分の考えを書くところがあり、こちらも主体的に取り組めると思う。自然災害やウイルスの写真など、イメージしやすい視覚的な情報が多くなっていた。また、事故の原因や悩みの原因などのデータがふんだんにあり、出典も公的機関のものを多く引用していた。

庄 司 委 員 A 者は、オリンピックやパラリンピックで活躍したアスリートを取り上げていて、興味・関心を持った学習につながると感じた。「より暮らしやすい社会を目指して、ともに助け合って生きよう」という学習では、共助、相手に無関心ではなく、相手の立場に立って理解する気持ちが大切ということが書かれており、とても重要なところだと感じた。

B 者は、写真、イラストの掲載が大変豊富であり、4コマ漫画も取り入れていて、とても親しみやすいものになっている。また、記述欄が多く、考えをまとめ、発表し伝えることで、成長できると感じた。

C 者は、「もっと知るところ課」や「もっと考えよう課」などがあり、その先の学びへの入口で、その先にスムーズに入っていけると感じた。また、記述欄だけではなくチェック欄もあり、記述の不得意な児童もいるので、チェック欄というのは楽しく取り組める感じがした。

D 者は、いじめや思春期の悩みを取り上げ、その対処法などの掲載が多くあった。また、食事を取ることの大切さを学習するということで、今まさにここが大切なところである。

E 者は、自然災害によるけがの防止が取り上げられていて、防災教育に大変配慮されていると感じた。写真やイラストが多く掲載され、大変見やすく、活用しやすいと思う。他の人の意見をよく聞き、わかったことや考えたことを記述するところが多く、記述をしたり、人に話したりすることで、成長できると感じた。

F 者は、導入部分に「つかもう」が設定され、その単元での課題をつかむことができると感じた。また、生活の中での予防について考えていくことが大変良いと思った。

花 洩 委 員 A 者は、スポーツ選手やプロ棋士など、児童になじみのある人物がたくさん選ばれていて、その言葉一つ一つは、児童の学習への意欲の喚起に繋がるのではないかと思った。また、対話的な活動のきっかけとして、様々なキャラクターがそれぞれの視点から投げ掛けを行っているのも大変すばらしいと思う。

B 者は、教科書見開き2ページで1単位時間の学習が完結し、これが全体で統一されていて、非常に学習しやすい教科書になっているなどと思った。また、記述する活動の充実を図っていて、そのスペースが十分に取ってあるというのも良いと思う。

C 者は、かけがえのない健康のために、自分から進んでどんな力を身につけなければいけないのかをコンセプトにしているということが非常に感じられた。また、「ミッション」と「ステージ」という二つから授業が組み立てられていて、「ミッション」と「ステージ」をクリアすると、実践につながる「宣言ページ」に流れていくという、非常にわかりやすい教科書である。

D者は、養護教諭、栄養教諭、カウンセラー、薬剤師、学校医など、専門的な知識を有する人材を積極的に活用している部分があり、すばらしいと思った。また、性差、国籍、人種など様々な多様性を尊重して、固定的なイメージの表現をできるだけ排除しているということを感じた。

E者は、ステップ1から4までの学習の流れが明確で、主体的な学習が進められると感じた。また、記入スペースが非常に多く設けられていて、教科書としての活用と作業帳としての副次的な活用が、この1冊で見込まれると思った。

F者は、「活動を行うヒント」「専門家キャラクターの解説」「ミニ知識」ようなコーナーが多くあり、児童の多様な学びに対応していると思った。また、自分の考えを記入する、話し合い活動や発表の際に活用できるという工夫もされていると感じた。

梅田委員 A者は、冒頭に「生活の中の保健を探そう」というページがあり、保健とは何を指すのかということを考える機会を作っているということが、大きな特長である。また、ステップ1、2、3という形で、学習が進んでいく流れが3年生から6年生まで通されていて、系統的な学びが計画されている。それから、学習の振り返り等があり、まとめに活用できるようにページが工夫されていた。

B者は、学習の進め方が丁寧に示され、マークの説明もあり、わかりやすく学習に取り組めると思った。また、「見つけよう」という部分があって、課題をそれぞれ持って学習に取り組めるように工夫されている。SDGsに触れられていたり、性の違和感についても取り上げられていたりということで、児童が興味を持ち、また、それぞれの個性を大切に学んでいけるような工夫がされていた。

C者は、各単元でそのテーマと自分がどう関わっているのかを考える「ステージ」というコーナーがあって、それぞれが考え、課題を捉えて学習に取り組んでいけるよう工夫されていた。「ミッション」から「ステージ」「エピソード」「まとめ」という流れが、3年生から6年生まで通されていて、系統的に学べるように工夫されている。学んだことを振り返って、自分の今後の課題を書くページもあり、普段の生活に生かしていくことができると思った。

D者は、冒頭で各地の学校内の掲示物の写真が掲載されていた。これは、各ページでも取り上げられていて、児童にとって親しみやすい教科書になっている。また、「予想する」という部分が各単元の冒頭にあり、自分はこの単元について何をどう考えて取り組んでいくのかという、自分なりの考えを持って取り組めるように工夫されていた。それから、性の違和感という形でLGBT等にも触れていて、そういったことも幅広く取り上げられているのも特長だと感じた。同じような写真がどの発行者でも使われているが、私はD者の「科学の目」というコーナーで、とてもわかりやすく写真や表が使われていると感じた。1ページの情報量も多くなりすぎず、かなり精選された内容を取り上げていると感じた。

E者は、「気づく」「調べる」「深める」「生かす」の流れが、3年生から6年生まで統一され、生活に生かす部分まで取り上げられているところが特長だと感じた。この会社も「性の自分らしさ」というような記載があって、いろいろな捉え方があるという良いということが示されていた。

F者は、冒頭でこの教科書で扱う他学年の内容も示されているので、小学校の保健でどんなことを学ぶのか、捉えやすく示されていると感じた。また、折り込みペ

ージを活用し、各単元での課題をまず見て、考え、それから学習に入っていくというような工夫されたページ構成であったと思う。この発行者もLGBT等の説明があって、それぞれの感じ方の違い、考え方の違いというようなものを幅広く捉え、児童に伝えていると感じた。また、考えたことを記入できるよう、記入スペースを工夫して盛り込んでいたと思うが、情報量も多くなく、余白と文字数とのバランスがとても良いと思う。

教 育 長 皆様から発言いただいた。今、話に出てきた中で質問などあれば伺う。

(質問なし)

教 育 長 それでは、皆さんが推薦する3者をあげていただきたい。

川 又 委 員 A者、B者、E者。

後 藤 委 員 A者、B者、C者。

山 田 委 員 D者、E者、F者。

庄 司 委 員 B者、D者、E者。

花 淵 委 員 C者、D者、E者。

梅 田 委 員 B者、D者、F者。

教 育 長 B者、D者、E者の3者が同じ4票ずつで上位の3者ということになるので、この3者でこれから議論を進めていきたいがいかがか。

(異議なし)

教 育 長 それではまず、この3者について改めて質問や意見があればいただき、その後にまた、3者のうちでどこかという意見をいただきたい。まずは、質問や確認したい点があれば伺う。

花 淵 委 員 保健の時数は年間何時間か。

教育指導課長 保健の学習は体育に含まれるので、そこに含まれる保健のみの時数ということでよいか。

花 淵 委 員 保健単独ではなく、体育の中に含まれるということで、保健の時数というのは特に設定されていないということか。

教育指導課長 体育の授業は、1年生は102時間、2年生から4年生までが105時間、5年生、6年生が90時間となっている。この中で、保健の分野として扱う時間の目安は、3年生と4年生で8時間、5年生と6年生で16時間という取り扱いになっている。

川 又 委 員 多くの教科書で、スポーツ選手のインタビューやスポーツ選手からのメッセージが入っているが、保健の学習とスポーツの関係性というのは、授業など、小学校ではどういう取り扱いになっているか。例えばスポーツ選手に関しての話題が必ず目立つところにあるが、この内容そのものはスポーツとあまり関係のない心と体の成長や変化、病気のことが扱われているというふうに見える。直接的に、教科書の中ではスポーツの話はほぼ出てこないが、実際の授業等で、スポーツ、保健の関係はどのように取り扱われているのか。

指 導 主 事 心と体の一体化ということで、心と体には深い関連性があり、やはり運動することで心がリフレッシュしたり、気分転換できたりすることや、心が晴れ晴れすることによって活力がみなぎり、スポーツがしたくなるといったような深い関連があるかと思う。教科書で扱われている内容に関しては、どちらかということ、児童の興味・関心を引くような内容が強いということで、調査研究委員会では話がなされた。

教 育 長 そのほかいかがか。

(意見なし)

教 育 長 それでは、ここからは皆様それぞれに、どこの発行者の教科書がよかったかというところも含め、意見をいただきたい。

川 又 委 員 3者とも同じように十分な評価ということで、特段どの教科書が群を抜いて優れているというようなところは感じない。

後 藤 委 員 この3者の中では、私はB者を薦める。どれも本当に良い教科書だと思うが、B者は、初めて保健を学ぶ3年生、4年生が恐れることなく入っていけるような導入部分で、健康とはどんな状態なのだろうということの豊富な例示を出し、「これから健康であるために大切にしたいと思ったことを書いてみましょう」といった内容がとても肯定的で入っていきやすい。また、これからの保健で絶対に教えて欲しいこととして、スマートフォンなどの使い方やインターネットトラブル、ながらスマホなど多くあり、そこをしっかりと出しているのはB者ではないかと思った。

D者もE者も、そこに関してはきちんと出しているので問題ないと思うが、児童が自分の体のことを知りたいと思ったときに、やはり保健の教科書で、自分の体がどう変わっていくか、成長する自分の心と体の変化ということの学びにとっても興味を持つと思う。そこで一番温かなアドバイスが載っているのがB者だと思った。

山 田 委 員 どの教科書も大変良いと思っている。ただ、最初に見たときの印象でいうと、E者が情報量として一番多いとは思ったが、情報量で判断していいのかどうかもわからず、基本的なところさえ出ていれば、情報量が多いからいいというわけではないのかもしれない。

また、D者は書くところが多く、直接書き込んでいけるというのは良い。ただ、この1者を推したいというところまでは、決めかねている。

庄 司 委 員 見れば見るほど迷うが、私はE者が良いと思う。生活の習慣を作るという基本的なことが丁寧に、基本に忠実に書かれている。

花 淵 委 員 最初にも話したが、B者もD者もE者も書く欄を意識して作られている。特にその扱いが大きいのは、やはりE者だと思う。作業帳的に使えるということ、それから書くことによってこの教科書に残るので、自分の気づきや、こんなことを書いていたんだということの振り返りにもなると思うし、書く欄が多いということは、何度も言うが、教師側としても、評価に使えることにもなる。大きな差はないと思うが、その点でE者が良いと思う。

梅 田 委 員 どこも工夫された教科書で良いと思うが、私はD者がいいのではないかと考えている。一番情報が精選され、3、4年生は少なめで、5、6年生は少し多めにしているが、よく整理された紙面で見やすいと感じる。また、書くスペースがたくさんあるので、どのように書かせ、使うかにはなるが、科学との関連性を意識させながら、「科学の目」というところでは、どの発行者よりも写真が見やすく整理されて示されている。

教 育 長 それぞれお話をいただいた。なかなか決めかねるという発言もあり、もう少しこの3者についての意見や気付いたことを話し合えればと思うので、何かご発言いただきたい。

川 又 委 員 どれを選ぶかという話ではなく、5、6年生になると、いろいろな病気の予防の話が出てくるが、一般的なことを考えると、小学校5、6年生で飲酒や薬物、喫煙

の話は少しなじみがないのかと思う。将来の10年後の話としては関係があるかもしれないが、それよりも一般的な生活習慣病の歯の病気、インターネットやスマートフォンを使った場合の目の問題、精神の問題など、そういうことの方が小学生にも関係があると思う。教科書を全部見ても必ず飲酒、喫煙、薬物の話が出てくるが、小学生が実感を持って聞いているかどうか。歯の問題、インターネットや電子機器の利用の問題、最近の話題である感染症については実感を持ってわかると思う。その辺は、実際の授業のやり方としてどうなっているのか、経験のある方がいれば教えていただきたい。

指導主事 喫煙、飲酒、薬物については、その子によっても違うが、高学年になると、ある程度情報として知っている児童がいることは間違いないと思う。もちろん家族の中に喫煙される方やお酒を飲まれる方もいて、すべてが悪いわけではないが、こういった影響があるということを、子どもたちが実際にたばこやお酒に出会う前に教えておくことが大事だという視点で、学校現場では指導がされている。

教育長 最終的には1者に絞り込んでいただきたいが、先ほどもなかなか甲乙つけがたいという発言もあったので、段階的に進めていきたい。まず、3者から2者に絞らせていただく。推薦する2者を、改めてお話しいただきたい。

川又委員 B者とE者。

後藤委員 B者とE者。

山田委員 D者とE者。

庄司委員 B者とE者。

花淵委員 地の文のフォントの大きさが、D者は若干小さいということもあり、B者とE者。

梅田委員 B者とD者。

教育長 皆さんの今の話からすると、上位はB者とE者の2者となる。それでは、B者とE者の2者について、もう少し意見をいただきたい。

花淵委員 細かいところで申し訳ないが、同じ単元のところを見て、例えば3、4年生のB者の12ページに、あきらさんとさとみさんの1日の生活が並べて書いてあったが、あきらさんは緑でさとみさんはピンクで名前が表示されている。同じくE者の1日の生活では、たくみさんとあやかさん、どちらも男女の性差はなく表記がされている。また、E者の場合はどの単元も最後に「まとめる、生かす」とある。「生かす」はどちらの発行者にもあるが、「まとめる」というところで、その単元で習って、押さえなくてはならない知識・理解の部分が、E者はきちんと整理してある。関心・意欲・態度だけではなく、知識・理解を押さえるという意味で、E者のステップ4の「まとめる」というところが、児童にとって効果的であり、ここで押さえなくてはならない知識、理解はこれだということが、括弧に入れることでまとめられると感じた。

教育長 性差や最後のまとめといった話だったが、その辺りで他の委員の皆様はいかがか。

後藤委員 B者の教科書の3、4年生の31ページに思春期の体の変化とあり、ここでは初経の体験談が出ていて、保健室に行けたということ載せているのは本当にありがたい。やはり児童はどうしていいかわからないと思うので、こういう具体的なことを載せてくれるのはとてもありがたい。それと比べると、E者は、「個人差がありま



す」という言葉をたくさん使っていて、具体的な体験談などはあまりない。確かに個人差はあるが、それをどう受け取るかというところはあると思う。

また、最初にも言ったが、E者は本当に工夫がされていて、やはり30ページの身長の対比表がとてもわかりやすく、魅力的だと思う。B者の対比表は少しわかりづらい。

あとは、やはり3年生の最初のところで、B者は健康とは何ぞやということ、あまり難しい勉強の方式を示すのではなく、絵を見せて健康について話をさせているが、E者は最初から勉強に入っていくというイメージがあり、導入のアプローチの仕方の違いを感じた。時間数が少ないので、E者の教科書の方が時間を取り、B者の方が少ないという印象だった。

山田委員 B者の紙面に青字で「デジタル」というアイコンがあるのは、何の印か。例えば3、4年生の17ページの右側に「デジタル 衣服の汚れ」とか、左側に「デジタル 手の汚れ」などがある。

指導主事 「デジタル」と表記されているところは、3ページの二次元コードを読み取れば、例えば衣服の汚れについて学べるという印になる。

山田委員 この二次元コードから入ると、ページの中にあるそれぞれの「デジタル」について出てくるとのことか。

指導主事 その通りである。

山田委員 3ページ以外の二次元コードは、また別のページに飛ぶのか。

指導主事 例えば、8ページにある動画資料と書いてある部分の二次元コードは、1番の「けんこうって、なに？」に関する動画と資料が読み取れる二次元コードになっている。

山田委員 二次元コードに関して言うと、E者の方が二次元コードが大きく、あちこちに結構な数が載っていて、それぞれに何の内容かが書かれていて、わかりやすいという印象を受けた。二次元コードから飛んだ先の内容は今回の審査対象ではないが、二次元コードの表示の仕方、どのあたりにあって、中身が何かというのは、E者の方が明確に書いてあるという気がしたので、「デジタル」について確認をした。

梅田委員 E者の方が、先ほどの1日の生活やグラフとか、比較するものがとてもわかりやすく示され、見やすいという感じはある。ただ、先ほどの女子、男子ということで言えば、B者は28ページ、E者は34ページに水着を着た男女の写真があるが、B者は同じような形のどちらも上下のある水着を着ていて、E者は男子はハーフパンツ、女子はワンピースであり、あまり男女の違いを意識していない。また、B者は水着の隣の体操着の写真も、男子も女子も同じ体操着を着ていて、配慮していると思う。先ほどの性差の話でいけば、いろいろな感じ方があるということ、B者は33ページのところで丁寧に書かれていて、E者も触れてはいるが、やはり個人差があるということでまとめられているので、もう少し丁寧に書いてあっても良いと思った。

教 育 長 いろいろとご意見いただき、それらを踏まえても、今日の段階で2者のどちらに決定するのか結論を出すのが難しいので、次回の7月14日に、今のB者、E者の2者について、また議論いただきたい。

今日のところは、「音楽」と「生活」は一定の結果が見出せたが、「保健」については次回に持ち越しとさせていただきます。7月14日は、「国語」、「書写」、「算数」、

「家庭」の予定となる。他に皆様からご意見がなければ、本日の臨時教育委員会は以上で閉会とする。

(意見なし)

4 閉 会